
想いが伝わるその時までは

紅月 時夢

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

想いが伝わるその時まで

【Nコード】

N15220

【作者名】

紅月 時夢

【あらすじ】

互いに好きなのに仕事に忙しく、すれ違う二人。想いが枯れていないだけに苦しくて、でも離れられない。

誰か……この気持ちの伝え方を教えて下さい。

いつからだろう。

小さなすれ違いがひずみになったのは。

いつだったろう。

ひずみが割れて大きな溝になったのは。

いつからだったろう。

本当の気持ちを言わなくなったのは。

幸せに過ごしていたはずだった。
楽しい毎日が過ぎていたはずだった。

しかし、二人の仕事はまるつきり異なっているもので、ともにいられる時間は日を追うごとになくなっていき、二人の気持ちはいつしかすれ違っていた。

「レノ、また、その日も仕事？」

「…ああ、すまないぞ、と。次……いつになるかな」

約束事が叶う日は少なく、記念日すらともに過ごせない。

「仕方ないさ、仕事なんだから」

「悪い、クラウド」

互いが互いを想っていることがわかっていからこそ、クラウドは苦しい。

互いが互いを想い過ぎていることがわかっていからこそ、レノは苦しい。

想っているだけ、行動に軽く示すだけで、口に出すことがなくなってしまった二人の愛情。

想う相手の心からの笑顔を最後に見たのは一体いつだったろう。今日を閉じると浮かぶのは、想う相手の今にも泣きそうな悲しそうな笑顔。

どちらも必死に時間を作っているというのに、中々休みは重ならない。

愛はある。

——枯れていない。

信じている。

——疑いは無い。

でも、だからこそ苦しい。

想う気持ちが相手を、そして自分を縛る鎖になると、この時二人は初めて知った。

「レノ、気をつけて」

「ああ、クラウド。お前も気をつけろよ。行ってくるぞ、と」
「行つてらっしゃい」

付き合い始めた頃は、レノがいつもふざけてクラウドにキスを送って仕事へ行っていた。しかしそれも、すれ違いがひずみに変わった頃、いつの間にか消えていた。

「苦しい……さびしいよ、レノ」

一人になった家中、クラウドは床の上で膝を抱えた。

「苦しい……お前の笑顔を見たいぜ、クラウド」

一人玄関から家を見上げ、レノは固く拳を握り締めた。

終わりにすれば早いのに

離れることは出来なくて
決してそれは出来なくて

二人の想いは昔と変わらず

風に攫われ消えていく

『見るよ、クラウド。ここ綺麗なんだぜ！』

『凄い…。レノが見つけたのか？』

『ああ、昔仕事でな。お前と来られてよかったぞ、と』

『レノ』

『ん？』

『ありがとう』

交わされることのなくなった想いは

今も変わることなく二人の胸の内に在る

いつか再び

想いを込めて伝えることの出来る日を待っている

一人呟かれる言葉は違う場所でありながら

同じ音を紡ぎだす

「クラウド……」

「レノ……」

「「今でも、愛してる」「」

地に、床に、雲が落ちる音までが重なった……。

e
n
d

（後書き）

これ作った時、凄くシリアスが書きたかったんですよね。本当は破局を書こうとしたんですけど、なぜか破局というか喧嘩すらしていない状況。勝手に二人はどんどん動いていきました。

そうか、そんなに離れたくなかったのか…！（黙）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1522o/>

想いが伝わるその時まで

2010年10月12日20時08分発行